

# 「生活綴り方運動」の先駆け 渡前小学校の貴重な教育遺産

渡前小学校には、県内で最も古い、1921（大正10）年から1928（昭和3）年までの「学校文集」があります。当時の「生活綴り方運動」の先駆けとなる文集で、教育遺産として貴重です。

「生活綴り方運動」は特に、県内では村山俊太郎とひでの「北方性教育」、戦後は無着成恭の「山びこ学校」が有名です。

村山俊太郎が代用教員となったのは1921年で、渡前小学校はその1年前の大正9年に校長となり、先駆

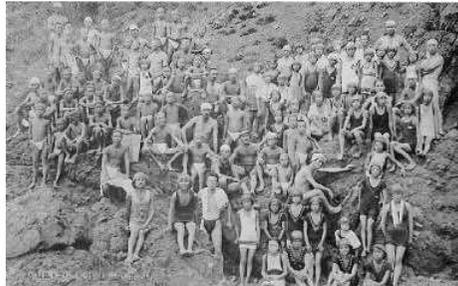
から取り組んでいました。なぜ、渡前小学校が全国のさきがけとなったのか。それは、長沼出身の大沼與吉校長がいたからです。大沼校長は、大正10年に校長となり、先駆



大戸真澄『温故知新』第1号



渡前剣道創立50周年（2017年7月2日。審判は現在の成澤和則教育長）



昭和2年の海浜学校

## 皆川おさむ政策パンフレットから、藤島地域の施策

渡前地区地域活動センターの体育館については、老朽化が進行しており、小中一貫校整備を進める中で、渡前小学校の校舎等の取扱いについて検討が必要となることから、その際に必要な機能が整備ができるよう取組みを進めます。



令和5年3月に旧東田川郡役所及び郡会議事堂が国指定史跡となったところであり、引き続き東田川文化記念館を含む藤島歴史公園（Hisu花）の環境整備を推進し、冬の風物詩となったHisu花ワークショップによる庄内最大級のイルミネーションの魅力を発信します。

鶴岡伝統芸能祭を開催するなど獅子の里の継承を図ります。

大東文化大学との交流を促進するとともに、「庄農うどん」が高い人気を誇る庄内農業高校と地域との連携強化や、鶴岡ごはん日本一コンテストなど、農業・商工業・地域のブランド力の向上を図ります。

## ふるさと賛歌

鈴木重雄（八色木）

日向富編・歌集「のうぜんかずら」⑩

第10回例会詠草 昭和45年9月24日

（第9回は前回の歌評のみ）

機知に富む翁が乗りしバスの中割れむばかりの賑はひとなる 池田竹恵

山峡の鄙びし宿に昼餉せる鯉のあらいとみに美味しき 同人

夜を徹し妻と看護の三週間妹逝きてはや四年を迎ふ 石川兵一郎

「白鳥」に我を送りし四歳の孫津軽越えても暇に残る 同人

白菜を消毒せねばと気にしつつ稲刈りに追われ今日も暮れゆく 太田辰吉

雨強く稲刈止めて帰り来ぬ母は風呂焚き我らを待ちをり 同人

献立の流水豆腐作らむと夢にまで見し友を語りて 齋藤かつ子

稲刈りの出足をくじく強き雨聞きつつ昼餉の銀鱈を切る 同人

おはぐろは浮葉はなれてなほ低く水面を去らずひとりさまよふ 須田稔

みづく葉におはぐろとんぼ来て止まりおぼつかねげに羽動かせり 同人

バインダーを持たぬ我をいとほしみ働くが趣味よと母も稲刈る 土田昭太郎

此の家の媪の仕事と思はるる軒端を赤く梅干しあり 同人

的な教育実践者で、今日まで続いている海浜学校や、武術大会を開催し、渡前剣道・遷喬道場の生みの親とも言われています。

大沼氏は戦後の混乱期に、県教育会の事務局長として、山形県教育の土台をつくった人物として高く評価されています。

大沼校長は、その学校文集を掲載した学校通信、『温故知新』の題で1号から92号までつくり、町内会の回覧に加えていました。

大沼校長は、その学校文集を掲載した学校通信、『温故知新』の題で1号から92号までつくり、町内会の回覧に加えていました。

# 農回顧

其八

团团似月每生風  
竹扇助涼与我同  
炎熱漸消秋節至  
棄損篋筥未須忬

農(のう)回顧(かいこ)

城貞(藤の花)

团团(だんだん)として月(つき)に似(に)て毎(つね)に風(かぜ)を生(しやう)ず  
竹扇(ちくせん) 涼(りやう)を助(たす)く我(われ) 与(と) 同(とも)にす  
炎熱(えんねつ) 漸(ようや)く消(しょう)す秋節(しゅうせつ) 至(いた)り  
棄損(きやうし) 篋筥(きえん)に棄損(きえん)せられ未(いま)だ須(もち)いず忬(かな)む

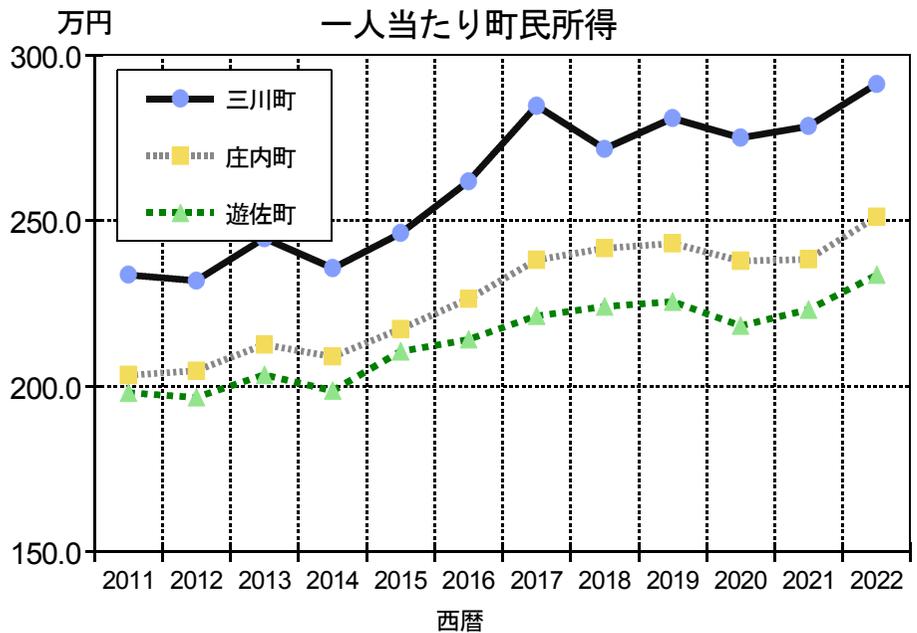
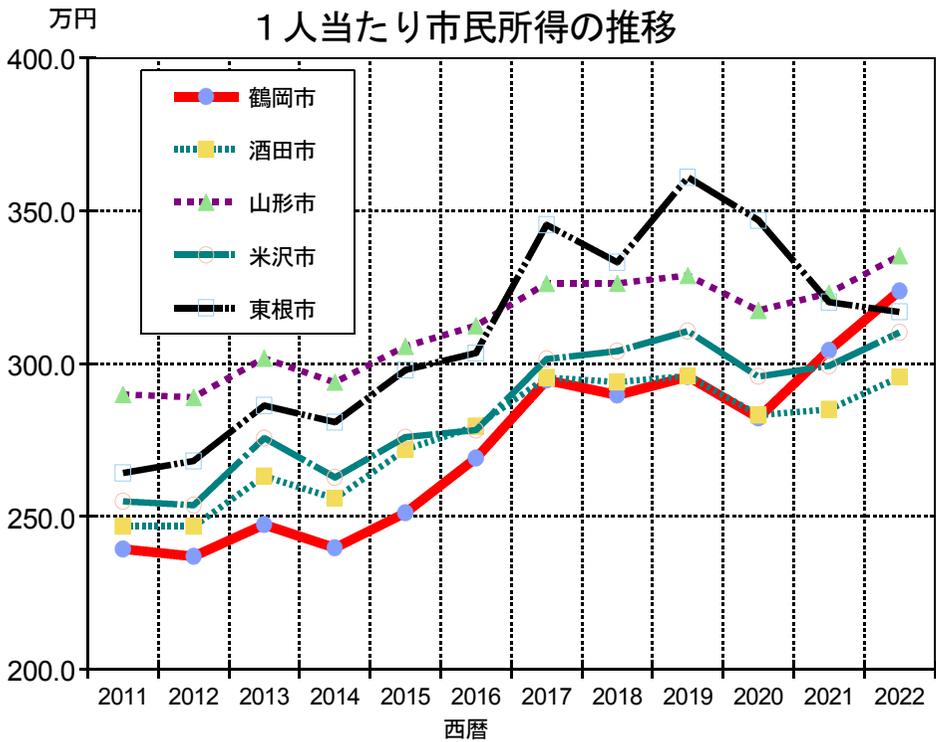
ウチワのまるまるの姿はまるで満月のようでも風を起こしている。  
竹で出来たウチワが涼しさを運んでくれて私のそばにいつも一緒にいる。  
蒸し暑いひどい暑さもなくなり秋の気節となる。  
秋になると箱にしまい込まれて相手にされなくなり全く必要になくなったウチワを悲しく思うのであった。



(昔は扇風機、エアコン、冷蔵庫等の涼を求める物はなく、せいぜい井戸の冷水を飲み体を拭いて団扇で風を起こして涼を求めるのが関の山であった。)

農(のう)ひやくしよう。回顧(かいこ)ああいう事も有(あ)ったこういう事も有(あ)ったと昔を思い出(おも)出すこと。团团(だんだん)まるい。毎(つね)いつも。竹扇(ちくせん)昔竹(むかし)で作(つく)ったウチワ。助涼(すけりやう)涼しさを運(は)んでくる。与(と)同(とも)と。同(とも)にもにする。炎熱(えんねつ)ひどい暑(あつ)さ。漸(ようや)だんだん。棄損(きえん)相手にしない。篋筥(きえん)衣服(いふく)を収(おさ)める箱(はこ)。忬(かな)かなしむ。

## 一人当たり市民所得、鶴岡市は県下2位に浮上



# きびちよ



## 文書で確認したが

内閣の支持率が上がり、多くが続投を望んでいたとの報道だったが、総裁選前倒しの圧力が大きくなった流れを見て、辞任を決めた首相。関税交渉に区切りがついたからこの時期なんだとは、丁度の時期だったよ。

▲しかしこの交渉、対等だったんか？足を運んだのは一方的に10回。この事だけでも主従で言えば従でしょう。共にウインウインになれるものにする・と言っていたんだが、やっぱり一方的な向こうのウインじゃないの？

▲国間の 約束ならば 書いとけや は、あるところに書いた川柳だが、初めは書かないんだ、それが良いんだと言いつ張っていた首相は困ったでしょ、むこうから文書にすると

いだされては。そして赤沢大臣とのあの握手。相手の喜んでるテレビのあの姿だ。内容の多くは伝えられてはいないが、80数兆円の投資だかの使い方に日本は、口も手も出せないんだとか。

▲報道は、15%に関税が下がったとしているが、今までは2・5%だったと言うから、とても喜べたもんじゃない。なんでこれでウインウインなんだ？

▲これもその時の川柳。なめられて たまるか言っただは 選挙用。で今思い出したのが、現役時代、ある会議の雑談で聞いたのが、「税金と雑巾の先にはホーキがある」というもの。

▲日本では税金は法定主義なんだ。向こうもそうなんだろう。関税の引き上げが暮らしに悪影響が出ているからと裁判になって、高裁もランプ関税は違法だとしている。(石川)

山形県の「令和4年度市町村民経済計算」によると、鶴岡市の「一人当たり市民所得」は323万7千円で、山形市の335万3千円に迫り、県下2位に浮上しました。

鶴岡市の総生産額は令和4年度、約7000億円で山形市の約1兆円に迫り、製造品出荷額は約5800億円で県内トップ(R4)、特に半導体関連企業の成長が著しいのが特徴です。

鶴岡市は新たに産業団地15haを開発します。